

## 日米国際交流シンポジウム 宿利会長ご挨拶

皆さま、こんにちは。運輸総合研究所(JTTRI)会長/ワシントン国際問題研究所(JITTI USA)会長の宿利正史です。

ご多用の中、本シンポジウムにご参集いただきました皆さま、オンラインでご視聴の皆さまに、心から感謝申し上げます。

また、日米関係の要諦を担うご公務にご多忙を極める中、ご臨席を賜りました山田重夫 米国駐劄日本国特命全権大使に厚く御礼申し上げます。

続いて、基調講演を賜ります、

・佐々江 賢一郎 日本国際問題研究所理事長であり、元米国駐劄日本国特命全権大使

・カート・トン アジア・グループ マネージング・パートナーであり、元在日米国大使館首席公使及び臨時代理大使  
のお二方に、心から感謝申し上げます。

また、後半のパネル・ディスカッション1では、長年にわたり日米間の人的交流の促進と発展にご尽力されてきた諸団体の中から、

・リッキー・ギャレット 全米国際姉妹都市協会 President and CEO

・フランク・ジャヌージ マンスフィールド財団 President and CEO

・加藤 和世(カトウ カズヨ)米国法人 日本国際交流センターエグゼクティブ・ディレクター

・ジェシカ・リビングストン US JET Program Alumni Association 専務理事

の4名にご登壇頂きます。

さらに、パネル・ディスカッション2では、日米間の人と人の交流を公的

分野から構築・支援する立場から、

- ・ピーター・ドッジ Brand USA 渉外課長
- ・村田 茂樹(ムラタ シゲキ)観光庁長官
- ・大平 真嗣(オオダイラ マサツグ)在米日本国大使館公使(広報・文化担当)
- ・ジェニファー・アギナガ 連邦商務省 旅行・観光業局 臨時次官補代理 兼 臨時課長

の 4 名にご登壇頂きます。

パネリストの皆様、ご参集をいただき誠にありがとうございます。

そして、パネル・ディスカッションのモデレーターは、ジャーナリストとしてご活躍され、現在はジョンズ・ホプキンス大学ライシャワー東アジア研究所シニア・フェローの道傳愛子さんです。どうぞよろしくお願いいたします。

JITTI USA では、2023 年3月、ここワシントン DC において「日米国際交流・観光シンポジウム 2023」を開催いたしました。このシンポジウムでは、パンデミック後の新たな日米関係の構築に向け、多層的かつ広範にわたる人と人との交流の意義を再認識するとともに、その再構築・強化を目指して、日米関係や国際交流・観光に造詣の深い日米の有識者にご議論頂きました。

その後、2024 年1月から 2025 年3月は「日米観光交流年」として、二国間の交流促進に向けたさまざまな取組みが日米両国で実施されました。また、先月の高市総理・トランプ大統領による日米首脳会談では、来年の米国建国 250 周年を共に祝い、日米の友好・交流関係を一層発展させていくことを確認したところです。

さて、皆さま、今から 55 年前、日本では大阪万博が開催され、「世界の

国からこんにちは」というテーマソングが大ヒットしました。歌詞には「こんにちは」がなんと 35 回も登場します。当時は、外国の方と直接接した経験のない日本人が大半であり、この歌詞がその事実を如実に物語っています。

そして大阪・関西万博が開催された今年、2025 年には、外国から日本に来られるお客様は、万博のみならず、日本各地を訪れています。前回の大阪万博が開催された 1970 年に 85 万人だった訪日外客数は、今年、その約 50 倍となる 4,000 万人を超える水準となっています。言語の壁を乗り越え、さらには戦争や紛争という溝を飛び越えて、分野や層を問わず、国際交流はいまや当たり前のこととして、互いの歴史や文化に触れる機会が着実かつ急速に拡大しています。ちなみに、今年の万博のテーマソングに登場する魔法の言葉「こんにちは」は8回のみでした。

皆さまご承知のように、来年アメリカ、カナダ、メキシコの 3 か国で開催される FIFA ワールドカップ・サッカーでは、多くの試合がアメリカ各地で行われるほか、2028 年にはロサンゼルス・オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、大規模な国際イベントが目白押しであり、日米間のみならず各国間の人的交流の一層の拡大が見込まれます。

しかしその一方で、世界は今、戦争・紛争・テロが絶えず、また、地政学的緊張がかつて無く高まっています。人と人との物理的な、また精神的な交流に水を差すおそれや分断の危機と常に隣合わせしています。このような状況だからこそ、多層的な人的交流の拡大は、日米関係のさらなる発展にとどまらず、相互理解と信頼の醸成を通じて、国際社会の安定に資する重要な要素として、その意義を一層増してきていると考えております。

本日、ご登壇の皆さまには、それぞれのご経験やご見識に基づき、日米間の多層的な国際交流の意義や課題・展望、そして国際交流を広く支える観光・文化政策の現状と今後の展開などについて、闊達な議論をお

願いしたいと思います。

最後になりましたが、本日のシンポジウムが、今後の日米間の国際交流の促進、ひいては、同志国との連携による「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP)の実現の礎石のひとつとなることを祈念しまして、私の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。

(以上)